

さといも生産者 各位

## サトイモ疫病の発生確認に御協力ください

いるま野管内では、令和2年に重要病害のサトイモ疫病が広範囲に発生して大きな被害をもたらしました。その後数年は、環境条件から発生、被害ともに少ない状況ですが、発生すると急激に広がり、大きな減収につながる恐れがあるため、早期の発見・防除が特に重要です。

つきましては、ご自身のさといもほ場をこまめに観察していただき、本病と疑われる症状を発見した場合は、JAまたは川越農林振興センターまで速やかにご連絡をお願いします。

### 記

#### 1 初発が確認された時期（過去5か年）

| R 2  | R 3   | R 4   | R 5   | R 6   |
|------|-------|-------|-------|-------|
| 7月7日 | 8月14日 | 7月22日 | 8月21日 | 7月30日 |

#### 2 発病しやすい気象条件

6月以降、日平均気温が20～25℃で、日降水量20mm以上の多雨や、数日間降雨が続く場合。特に、1株あたりの親芋・子芋を合わせた葉枚数が15枚以上になると、ほ場内が高湿度条件となるため発病の危険が高まります。

#### 3 連絡先

JAいるま野（第二営農販売センター） TEL 049-274-1466  
川越農林振興センター農業支援部 TEL 049-242-1804

#### 4 参考（サトイモ疫病写真）



# サトイモ疫病の発生にご注意ください！

令和 7 年 6 月  
さといも振興研究会

いるま野管内では、「サトイモ疫病」が令和2年に広範囲で発生し、大きな問題となりました。

本病は感染力が強く、被害も大きいため、発病前からの予防的薬剤散布が被害軽減につながります。

全国有数の産地を守るため、裏面の防除資料を参考に、地域全体で防除・管理を行いましょう。

## 本病の特徴

- ・ 病原菌：カビの一種で、サトイモ属にのみ感染する。
- ・ 被害：病斑の形状は円形。次第に広がり、病徴が進むと穴が開く場合がある。葉の表面だけでなく、裏面にも病斑ができる。  
葉柄には黒いしみ状の病斑ができる。
- ・ 伝染方法：風雨により急激にまん延する。
- ・ 発生しやすい気象条件：  
6月以降、日平均気温が20～25℃で、日降水量20mm以上の多雨や数日間降雨が続く場合。特に、1株あたりの親芋・子芋を合わせた葉枚数が15枚以上になると、発病の危険が高まる。



【お問い合わせ先】 JAいるま野第二営農販売センター TEL:049-274-1466

川越農林振興センター 農業支援部 TEL:049-242-1804

# サトイモ疫病の防除について

令和7年6月  
さといも振興研究会

- 予防散布に努めてください。薬液には、展着剤（ドライバーまたはスカッシュ）を加用しましょう。
- 日中の高温時は薬害が発生しやすいため、散布を避けてください。
- 表の時期は目安です。実際の発生状況に応じて農薬散布を行ってください。
- 表の「※」で示した剤は、共通の有効成分「マンゼブ」（使用2回まで）が含まれます。使用回数に注意ください。

| 散布時期の目安                 | 薬剤名                        | 希釈倍数   | 散布液量           | 使用方法           | 使用時期         | 本剤使用回数 |
|-------------------------|----------------------------|--------|----------------|----------------|--------------|--------|
| 6～7月<br>（予防散布）<br>15葉目安 | ペンコゼブ水和剤 ※<br>（ジマンダイセン水和剤） | 500倍   | 100～300 L/10a  | 散布             | 収穫7日前まで      | 2回以内   |
|                         | ピシロックフロアブル                 | 1,000倍 | 100～300 L/10a  |                | 収穫前日まで       | 3回以内   |
|                         | ランマンフロアブル                  | 2,000倍 | 100～300 L/10 a |                | 収穫前日まで       | 2回以内   |
| 発病確認後                   | ダイナモ顆粒水和剤                  | 2,000倍 | 100～300 L/10 a | 散布             | 収穫21日前<br>まで | 3回以内   |
|                         |                            | 40倍    | 3.2 L/10 a     | 無人航空機<br>による散布 |              |        |
|                         |                            | 20倍    | 1.6 L/10 a     |                |              |        |
| 2回目以降<br>ローテーション<br>散布  | オロンディスウルトラSC               | 2000倍  | 100～300L/10a   | 散布             | 収穫7日前まで      | 2回以内   |
|                         | カンパネラ水和剤 ※<br>（ベネセット水和剤）   | 1,000倍 | 100～300 L/10 a | 散布             | 収穫 7 日前まで    | 2 回以内  |
|                         | アミスター20フロアブル               | 2000倍  | 100～300 L/10 a | 無人航空機<br>による散布 | 収穫14日前<br>まで | 3回以内   |
|                         |                            | 18倍    | 1.6L/10 a      |                |              |        |
|                         | ダイナモ顆粒水和剤                  | 上記同様   |                |                |              |        |
|                         | アミスター20フロアブル               | 上記同様   |                |                |              |        |
| 9～10月                   | ジーファイン水和剤                  | 1,000倍 | 150～500 L/10 a | 散布             | 収穫前日まで       | －      |
|                         | ICボルドー66D                  | 100倍   | 100～300 L/10 a |                | －            | －      |

- ・ダイナモ顆粒水和剤とランマンフロアブルの連用は避けましょう（耐性菌発生リスクが高いため）。
- ・農薬の使用にあたっては、必ずラベルに記載された使用方法に従い、飛散防止に努め、使用記録簿をつけましょう。
- ・掲載した農薬は、2025年6月8日現在の登録情報に基づいています。